

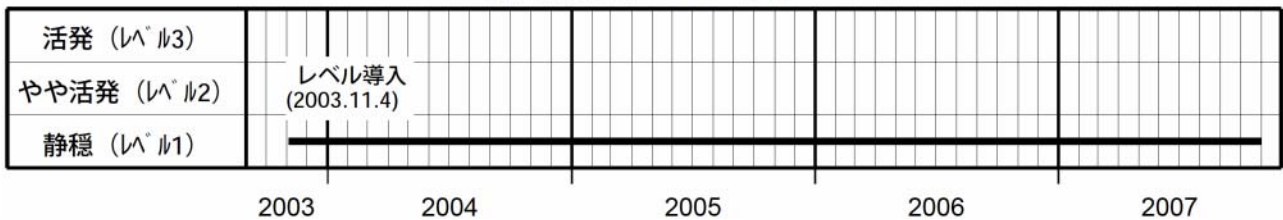
雲仙岳

火山活動評価：静穏な状況（レベル1）

火山活動に変化はなく、静穏に経過しました。

2003年11月4日のレベル導入以降、レベル1が継続しています。

火山活動度レベルの推移



概況

・噴煙活動（図2）

噴煙は白色、ごく少量で高さの最高は30mと低調に経過しました。

・地震、微動活動（図2、図3）

火山性地震の回数は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動（図4～図6）

GPS連続観測及び19日に実施した光波測距観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

・熱活動（図7、図8）

16日に平成新山の熱観測を実施しました。前回(2006年9月28日)と比べ、地熱域の分布や表面温度に大きな変化はありませんでした。

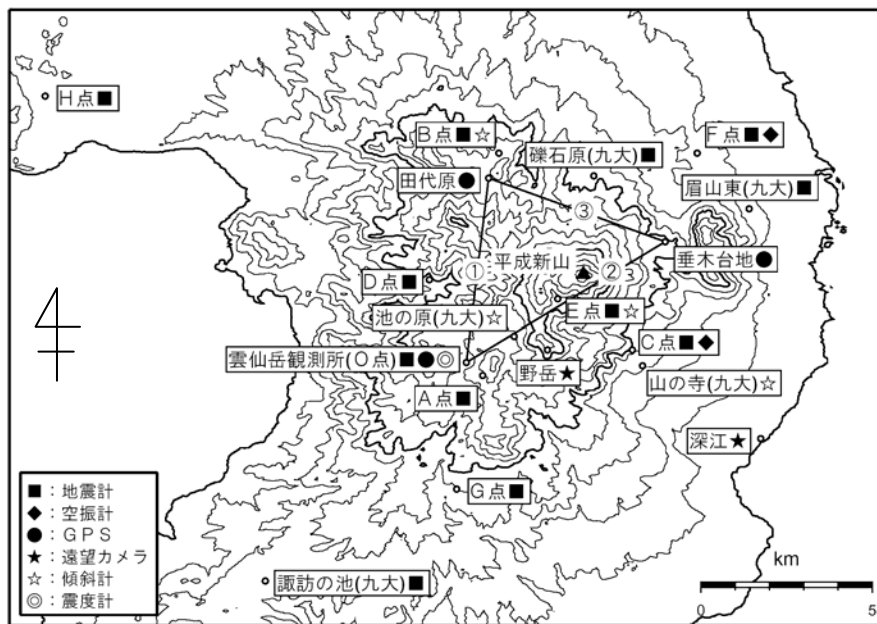


図1 雲仙岳 観測点配置図

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータ他、九州大学のデータを使用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号：平17総使、第503号)。

雲仙岳

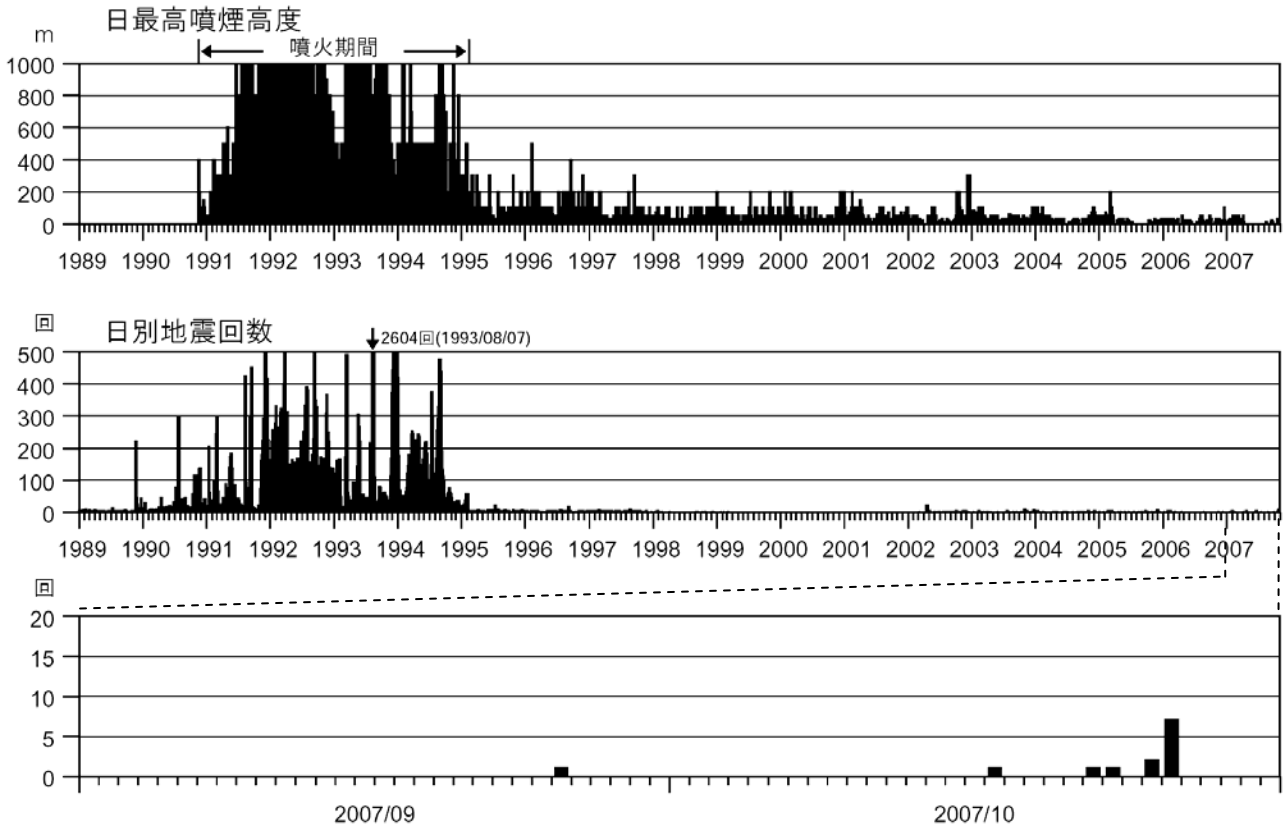


図2 雲仙岳 火山活動経過図(1989年1月~2007年10月)
遠望観測で噴煙の高さの最高は30mでした。(9月:10m)。

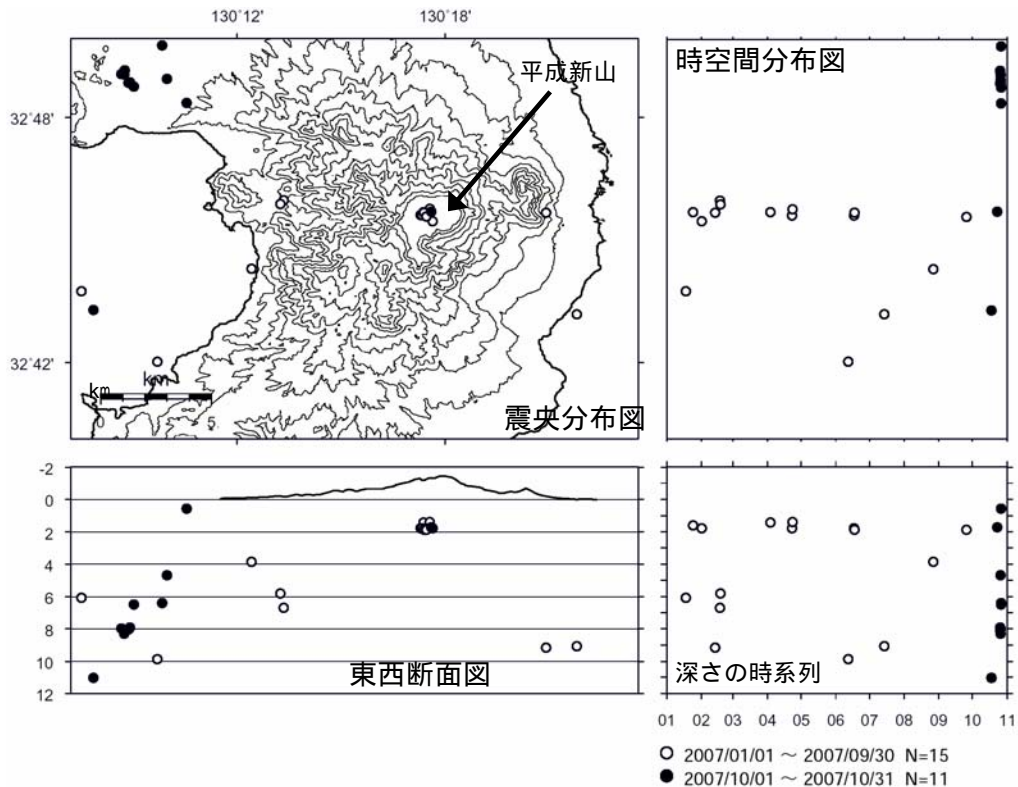


図3 雲仙岳 震源分布図(2007年1月~2007年10月)
火山性地震は平成新山付近に1個の震源が決まりました。
平成新山の北西約15kmを震源とする地震が9回発生しましたが、これらは
火山活動に直接影響は無いと考えられます。

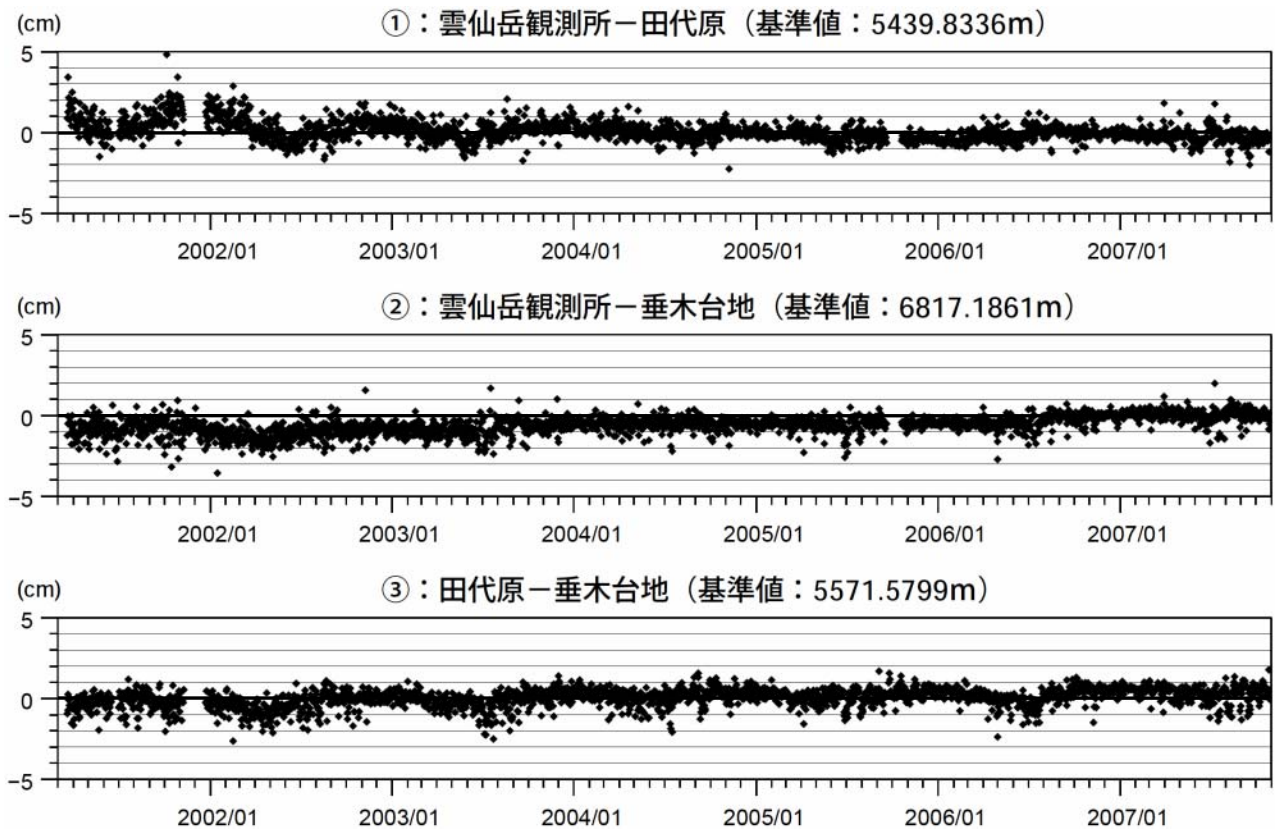


図4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化(2001年3月20日～2007年10月31日)
火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。

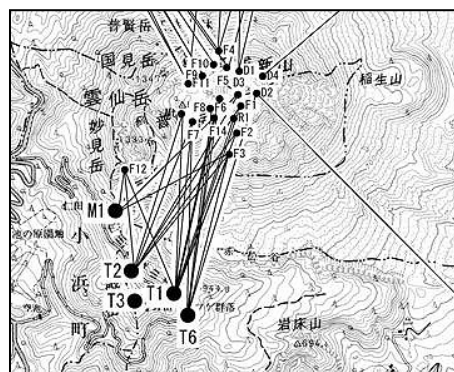


図5 雲仙岳 光波測距観測点位置図

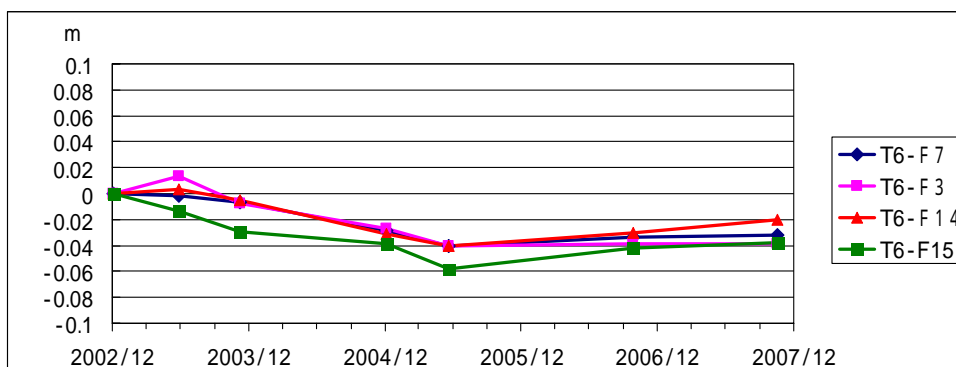


図6 雲仙岳 観測点とミラー間の斜距離の変化
観測点と各ミラーとの斜距離に大きな変化は認められませんでした。

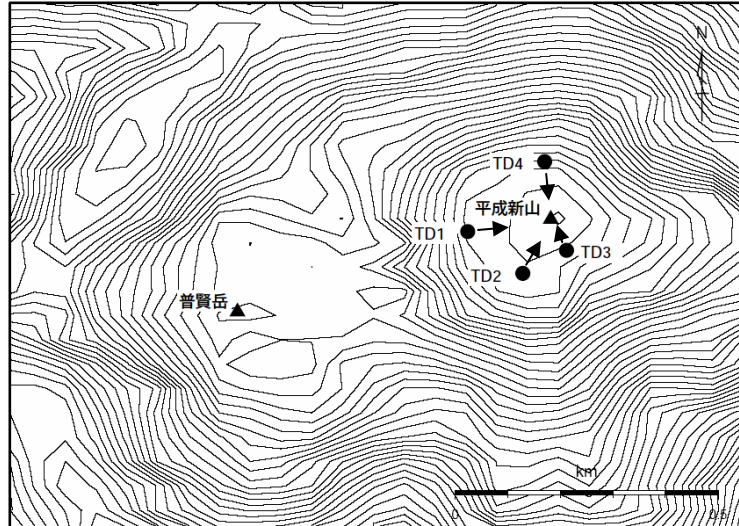


図7 雲仙岳 熱映像観測点位置図

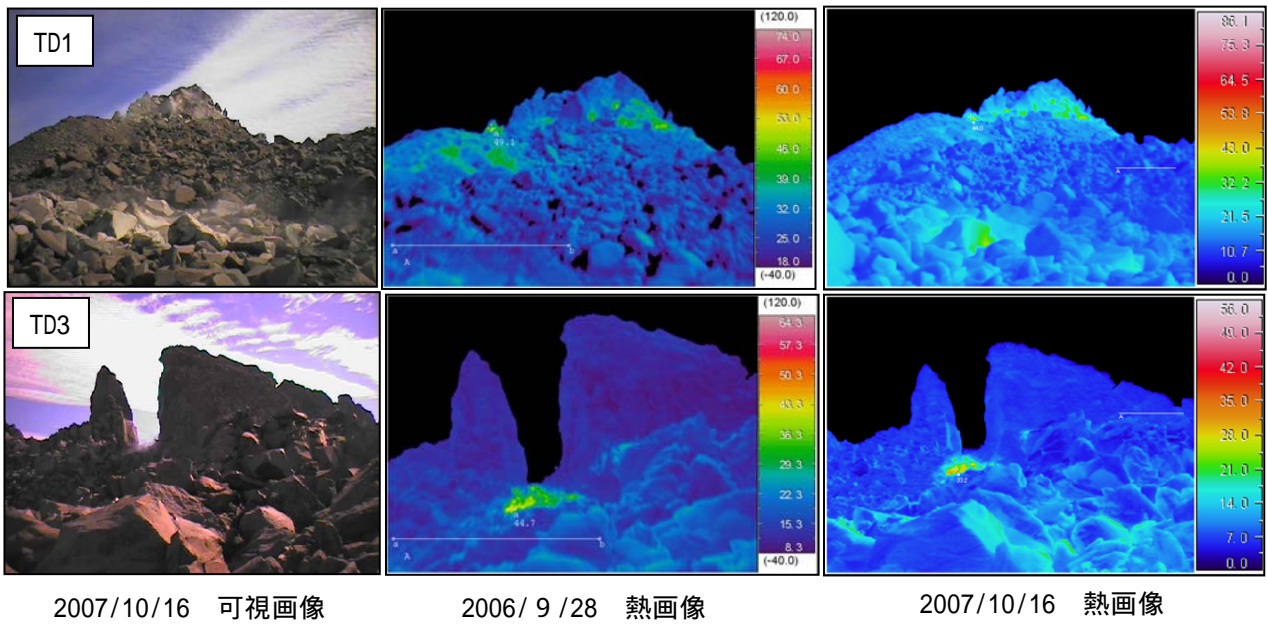


図8 雲仙岳 平成新山の熱映像 (TD1及びTD3の定点から観測)

前回(2006年9月)と比べ、地熱域の分布や表面温度に大きな変化は認められませんでした。